



神奈川県

神奈川県介護生産性向上推進事業

介護生産性向上・介護テクノロジー活用セミナー

介護テクノロジー活用事例報告会

～現場が変わった！生産性向上に取り組んだ事業所のリアルな声を共有～



本事業は、介護生産性向上のための介護ロボット、ICTテクノロジーを新規に導入し、導入後も有効活用ができるように業務アドバイザーによる伴走型の支援を行うことを目的とした事業です。本セミナーでは、今年度様々な介護ロボットを活用して生産性向上の取り組みを実践した介護事業所8か所の事例をご報告します。

プログラム

14:00 開会あいさつ「神奈川県生産性向上推進事業の今後の展望」

神奈川県福祉子どもみらい局高齢福祉課

14:10 実践報告A「新規介護テクノロジー導入事業の概要」

株式会社善光総合研究所

実践事例報告・意見交換（新規介護テクノロジー導入支援）6事業所

- ・社会福祉法人いきいき福祉会 特別養護老人ホーム ラポール藤沢
- ・社会福祉法人中川徳生会 特別養護老人ホーム ビオラ市ケ尾
- ・医療法人勝又 介護老人保健施設 あじさいの郷
- ・JA神奈川県厚生農業協同組合連合会 介護老人保健施設ほほえみの丘
- ・社会福祉法人麗寿会 特別養護老人ホーム ふれあいの麗寿
- ・医療法人社団廣風会 介護老人保健施設 ラ・クラルテ

15:00 休憩

15:10 実践報告B「導入した介護テクノロジーの活用の概要」

株式会社TRAPE

実践事例報告・意見交換（導入した介護テクノロジーの活用支援）2事業所

- ・社会福祉法人兼愛会 特別養護老人ホーム しょうじゅの里小野
- ・社会福祉法人大六福祉会 伊勢原ホーム

15:50 総合討論「介護テクノロジー活用に必要なレディネスと伴走支援」

登壇者、神奈川県、横浜市総合リハビリテーションセンター、(株)TRAPE、(株)善光総合研究所

16:30 閉会

神奈川県介護生産性向上推進事業（活動支援事業） における伴走支援の概要

株式会社善光総合研究所
介護DX部 田村孝司
作業療法士(ph.D)

支援内容

神奈川県介護生産性向上推進事業（活動支援事業）における伴走支援として、厚労省のパッケージモデル等を踏まえた伴走支援を実施しました。

基本的には視察1回、現場職員向け研修2回、実地mtg3回を基本に必要なに応じて相談を行いました。

パッケージモデル



プロジェクトの流れ（例）

- 取組意義、プロセス、重要ポイントなどの説明と対話
 - 事業所概況、これまでの取組経緯、現状課題感などのヒアリング実施
 - 現場視察による日常業務アセスメントの実施
 - ヒアリング結果の整理、優先取組テーマ（仮説）の設定
 - 事業所内でのチーム組成、全体キックオフのサポート
 - 具体的な進め方、スケジュールの提示
 - 善光会におけるベストプラクティスの提供**
 - 因果関係図で見える化した課題の解釈の支援
 - 現場との対話ポイントや対話方法のサポート
 - 優先取組テーマについての深掘り対話、実施内容・手順策定
-
- 介護ロボット活用研修の実施**
 - 業務整理・解釈・Reデザイン、各種業務工程とテクノロジー活用との相性検証ほか
-
- 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証
 - 振り返りミーティングの実施（良かった点、今後改善する点等の検討）
-
- うまくいかなかったことに対しての実行計画の見直し

実地指導3回

伴走支援事業の概要

施設見学会

- 対象：介護施設の施設長/理事長等

介護テクノロジー導入のための研修会

- 対象：介護施設の現場リーダー/スタッフ

伴走支援

- 課題の見える化に関する支援、課題を踏まえた適切な介護ロボット選定に関する助言
- 介護ロボットの導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言
- 職員に対する研修等の実施に関する助言
- 介護ロボット導入による効果の把握
- 取り組みの見直しに関する助言

施設見学会の概要

施設経営者・運営責任者向け説明会

善光会・サンタフェガーデンヒルズの概要

社会福祉法人は東京都大田区を中心に特別養護老人ホームなど19事業所を展開する法人です。その基幹施設であるサンタフェガーデンヒルズは特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・障害者福祉施設等から成る複合福祉施設です。

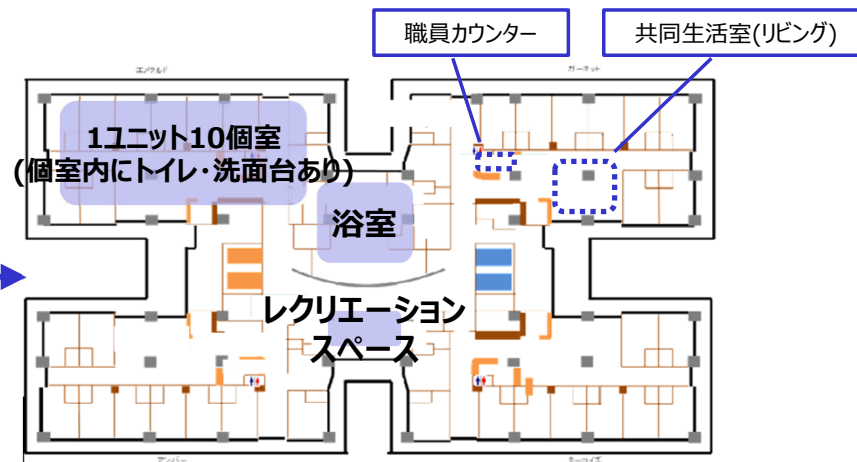


東京都大田区を中心に19事業所を展開

複合福祉施設 サンタフェガーデンヒルズ

- 8~9F 介護老人保健施設
アクア東糀谷
- 7F 障害者福祉施設
アミックス東糀谷
- 3F~6F **特別養護老人ホーム
フローズ東糀谷**
- 2F 短期入所生活介護
フローズ東糀谷
- 1F 通所介護、
通所リハビリテーション等

項目	概要
法人名称	社会福祉法人 善光会
設立年月日	平成17年12月7日
代表者	理事長 西田 日出美
本部所在地	東京都大田区東糀谷六丁目4番17号
従業員数	475名（2023年11月1日現在）
基本金	825.5百万円
施設種別	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、デイサービス、障害者福祉施設、グループホーム、ショートステイ、居宅介護支援等



- 1フロアあたり40名の利用者様（10名×4ユニット）が居住
- アクア東糀谷（老健）、アミックス東糀谷（障害）においても若干フロアプランは異なるものの概ね類似の部屋構造

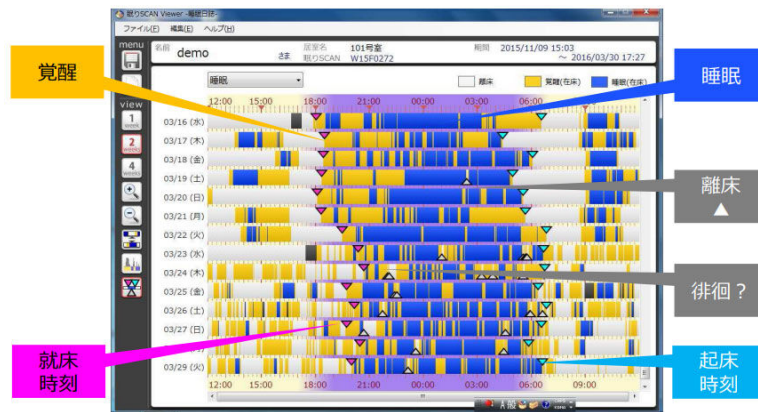
善光会が活用している主な介護テクノロジー

	介護ロボット	介護ICT	その他
稼働中	見守り  眠りSCAN／パラマウントベッド  HitomeQケアサポート／コニカミノルタ QOLソリューションズ  ペイシエントウォッチャープラス／アルコ・イーエックス 入浴  アイシニアケア／エクセルエンジニアリング  ピュアット／金星 移乗・移動  HUG／FUJI  ロボヘルパー SASUKE／マッスル コミュニケーション  Pepper／ソフトバンクロボティクス  PALRO／富士ソフト 排泄  D Free／D Free	SCOP／善光総合研究所  TREKZ TITANIUM／Shokz  LINE WORKS／ワークスモバイルジャパン 各種業務ソフトウェア（勤怠管理システム、会計システム、ショートステイ荷物管理システム等）	 ころやわ／Magic Shields  Ninebot mini Pro／Segway 介護施設向け オンライン医療相談サービス  DoctorMate オンライン医療相談／ドクターメイト
過去に使用・実証	見守り  シルエット見守りセンサ／キング通信工業  ノーリツプレジジョン／Neos + Care 排泄  Helppad／aba 移乗  HAL／CYBERDINE	 スマートマットクラウド／スマートショッピング	

介護テクノロジーの活用例① 眠りSCAN

睡眠センサー「眠りSCAN」を活用して利用者様の睡眠状況を遠隔リアルタイムで把握し、巡視・訪室を効率化しています。更に利用者様の睡眠習慣を把握し、生活の質を向上させるためのケアを実践しています。

睡眠習慣を踏まえたケア方針の検討



睡眠習慣を把握した上で
その方に合った介護の方針を検討し
 （日中活動の変更、午睡の調整など）
生活の質の向上のためのPDCAを実践

夜勤帯の巡視オペレーションの変更



利用者様の睡眠状況をリアルタイムで
 把握し不要な巡視を削減、
訪室する際もタイミングを調整
DFreeとの組み合わせも可能（詳細次頁）
 起き上がりや離床のアラート機能も活用

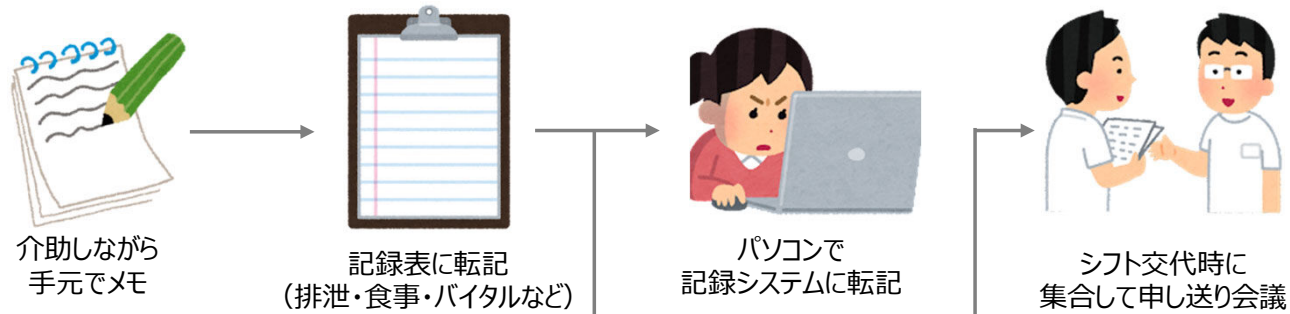
介護テクノロジーの活用例② スマホとインカム

職員は勤務中、業務用スマートフォンとインカムを身につけています。スマホには様々なアプリがインストールされており、見守り機器からの通知や他職員とのグループ通話をBluetoothで接続されているインカムを通して聞くことができます。

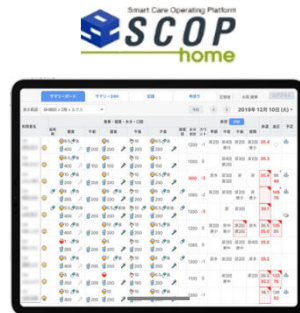


介護テクノロジーの活用例③ SCOP home

介護記録ソフトSCOP homeを活用することで、介助したその場ですぐ記録をつけることが可能になり、紙のメモやその転記作業が不要になりました。また申し送りもSCOP上で完結するため会議開催が不要になりました。

Before
(一例)

After



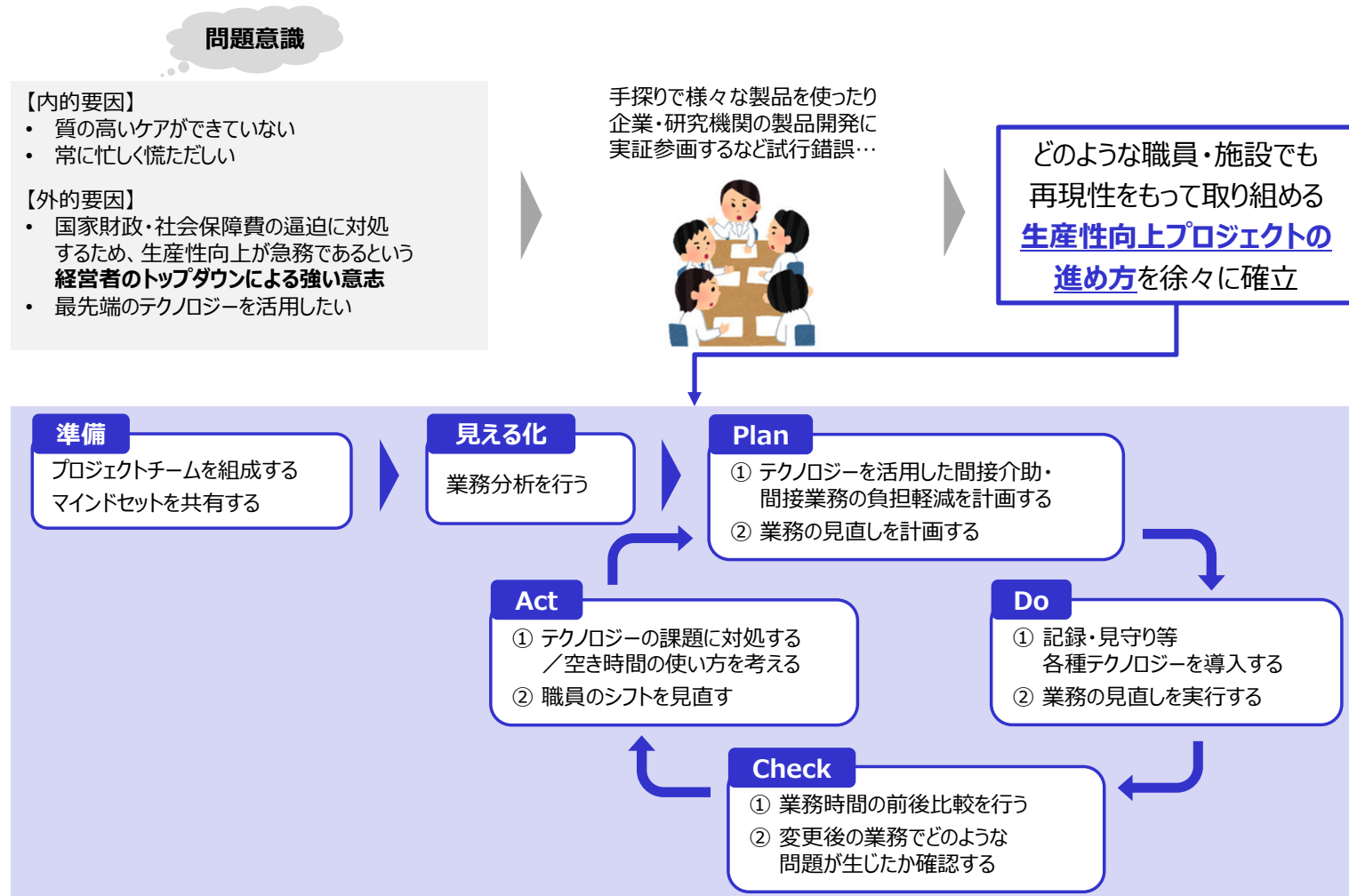
各ユニットのiPadを
職員が持ち運びながら
その場でタップして記録
(PC転記不要)



申し送り事項をSCOP上で確認
(会議実施不要)

生産性向上に向けた取り組みの全体像

善光会は様々な問題意識を発端として試行錯誤を重ねた結果として、「準備」「見える化」「PDCA」から成り、どのような職員・施設であっても再現性をもって取り組める生産性向上のプロジェクトの進め方を確立してきました。



管理者に職員研修の内容をご紹介します、進め方をご理解いただきました。

現地mtgでお打ち合わせする内容

1回目 改善準備

- 施設概要の確認 (ご依頼)
- 課題及び設備の確認
- スケジュール確認
- 見積もりやデモ等依頼の進め方の確認

2回目 改善計画

- 手順書やルール の 策定状況の確認
- 委員会等からの疑問のヒヤリング
- 補助金資料の確認
- 測定内容の確認

3回目 改善活動

- 手順書の初期改善
- 現状のヒヤリング
- 効果効測定

生産性向上加算のポイント ①

生産性の向上等を通じた働きやすい職場環境づくり

利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置の義務付け

省令改正

■ 介護現場における生産性の向上に資する取組の促進を図る観点から、現場における課題を抽出及び分析した上で、

目指す方向性を確認しています。

【単位数】

生産性向上推進体制加算（Ⅰ） 100単位/月（新設）

生産性向上推進体制加算（Ⅱ） 10単位/月（新設）

【算定要件】

<生産性向上推進体制加算（Ⅰ）>

- （Ⅱ）の要件を満たし、（Ⅱ）のデータにより業務改善の取組による成果が確認されたこと。
- 見守り機器等のテクノロジーを複数導入していること。
- 職員間の適切な役割分担（いわゆる介護助手の活用等）の取組等を行っていること。
- 1年以内ごとに1回、業務改善の取組による効果を示すデータの提供を行うこと。

<生産性向上推進体制加算（Ⅱ）>

- 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の開催や必要な安全対策を講じた上で、生産性向上ガイドラインに基づいた改善活動を継続的にやっていること。
- 見守り機器等のテクノロジーを1つ以上導入していること。
- 1年以内ごとに1回、業務改善の取組による効果を示すデータの提供を行うこと。

✓ 適切な委員会の設置と運営

委員会は定期的に会議を開催し、改善点や新たな取り組みを議論する。また、メンバーには施設の運営に詳しいスタッフや専門知識を持つ外部のアドバイザーを含めると効果的。

✓ 介護テクノロジーの導入

導入前には計画立案、補助金の利用、職員研修が重要。導入後は、その効果を定期的に評価し、必要に応じて改善を行うことも重要である。

✓ スタッフの教育・研修

導入したテクノロジーの使用方法や生産性向上のための具体的な手法などを含めると良い。導入後も定期的な研修の実施とその効果の評価を行うことが必要である。

介護テクノロジー導入研修会の概要

現場責任者向け説明会

本研修の目標

教育目標

生産性向上ガイドラインに基づき介護ロボット等を利用した生産性向上を実現することができる

研修会到達目標

ケアテックと利用者支援の関係性を説明することができる
利用できるケアテックの種類を列挙できる
自施設の課題について見える化することができる
改善計画(導入計画)を立案することができる

研修予定（１日目/2日間）

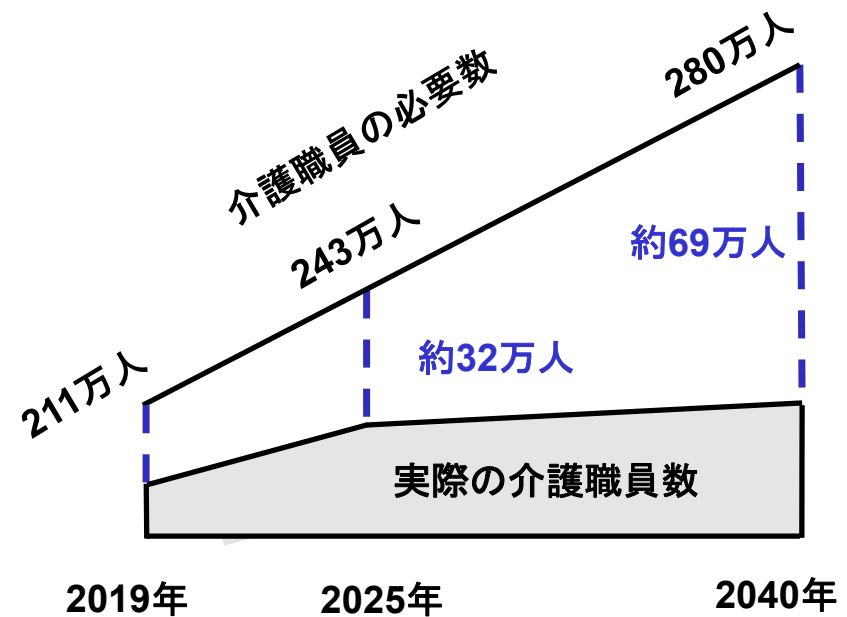
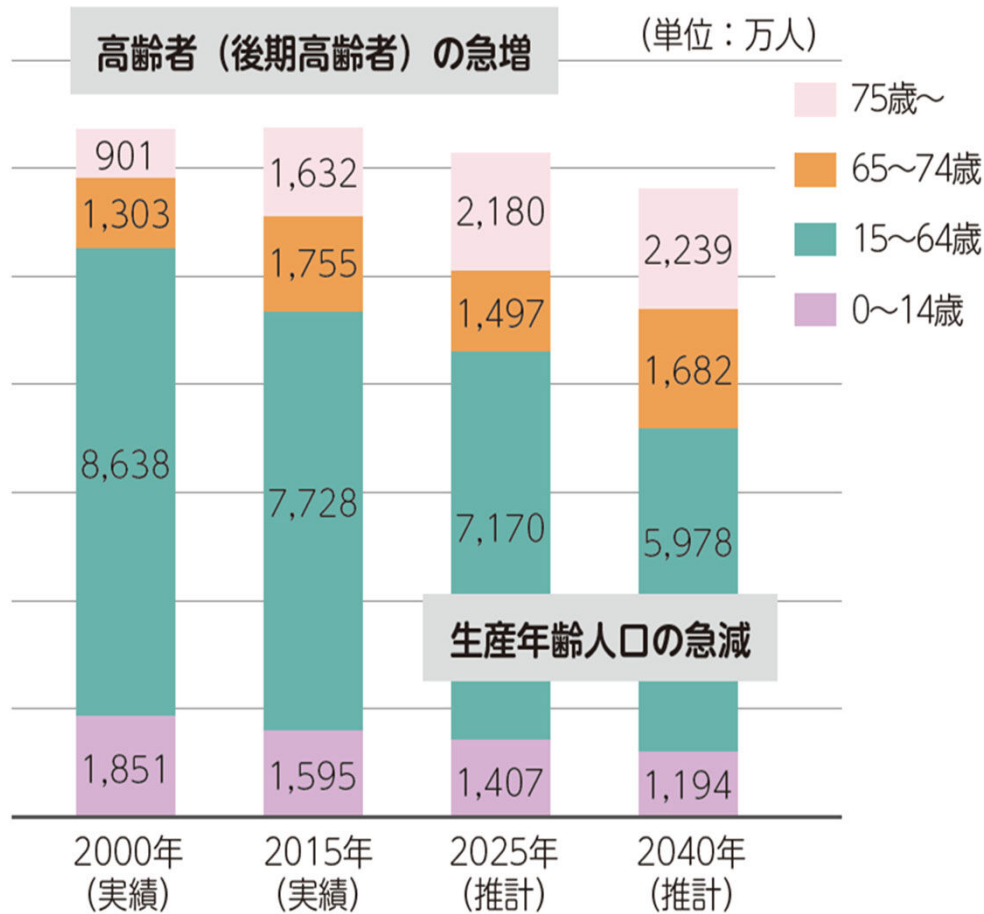
第1日	講義時間	講義形式	授業内容	到達目標
1限	10:00 - 10:50	講義	ケアテック概論	ロボット技術の介護利用における重点分野 6 分野13項目を 列挙し、それぞれの特徴を列挙できる
2限	11:00 - 11:50	講義	利用者の状況とケアテック関係論	重点分野に挙げられている業務とケアの関係性を説明する ことができる
休憩	11:50 - 13:00			
3限	13:00 - 13:50	講義	介護業務課題発見論	生産性向上に向けた自施設の課題を見つける視点を持つこ とができる
4限	14:00 - 14:50	演習	課題抽出演習	自施設の課題を抽出することができる

※時間はあくまで目安で質疑応答等もあり多少前後いたします。

研修予定（2日目/2日間）

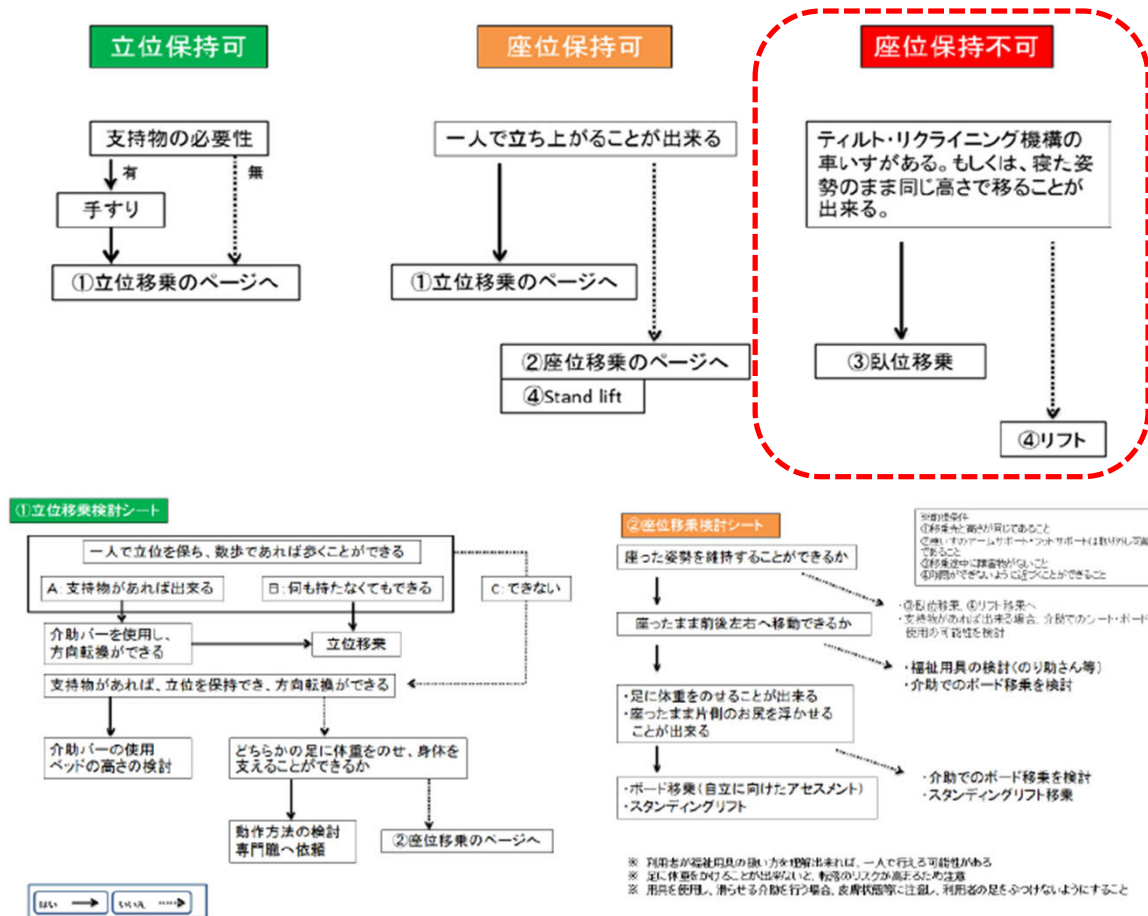
第2日	講義時間	講義形式	授業内容	到達目標
1限	9:30 - 9:50	講義	オリエンテーション 緩やかな因果関係作成論	自施設で確認された課題について緩やかな因果関係を見出すことができる
2限	10:00 - 11:30	実習	現場体験	ケアテックを利用したケアの現場を体験する
3限	11:30 - 12:30	実習	現場体験まとめ	体験した内容を考察する
休憩	12:30 - 13:30			
4限	13:30 - 14:20	演習	ケアテック体験①	HitomeQ ケアサポート、ペイシェントウォッチャーを体験し特徴を説明することができる
5限	14:30 - 15:50	演習	ケアテック体験②	眠りスキャン、SCOP、インカムを体験し特徴を説明することができる
6限	15:30 - 16:20	演習	導入計画立案論	自施設における導入計画案を立案することができる

生産性向上を推進する社会的背景

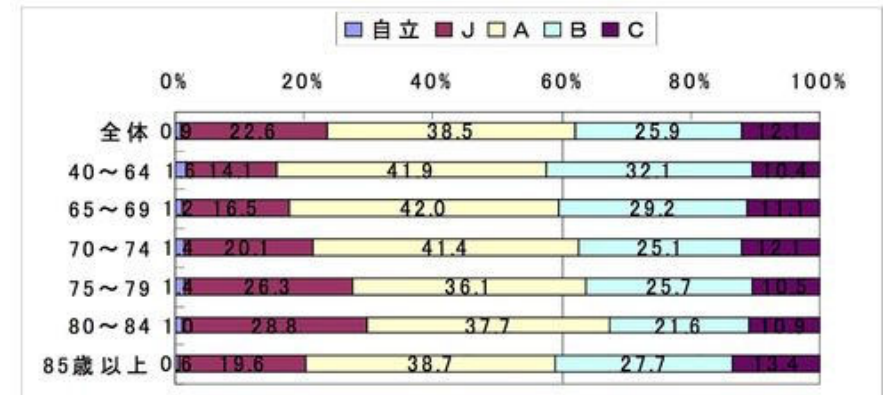


リフトの適用

簡易移乗フローチャート（リフト導入プログラムより抜粋）



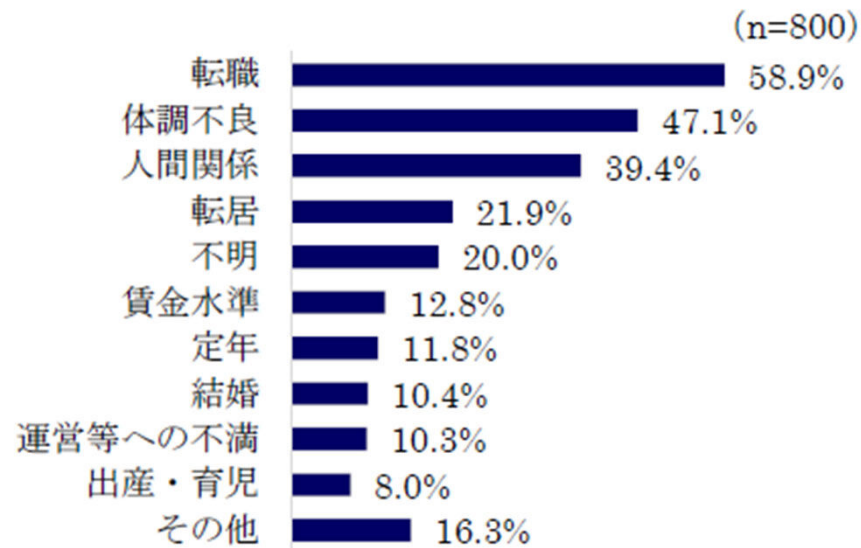
障害高齢者日常生活自立度
C=2レベル



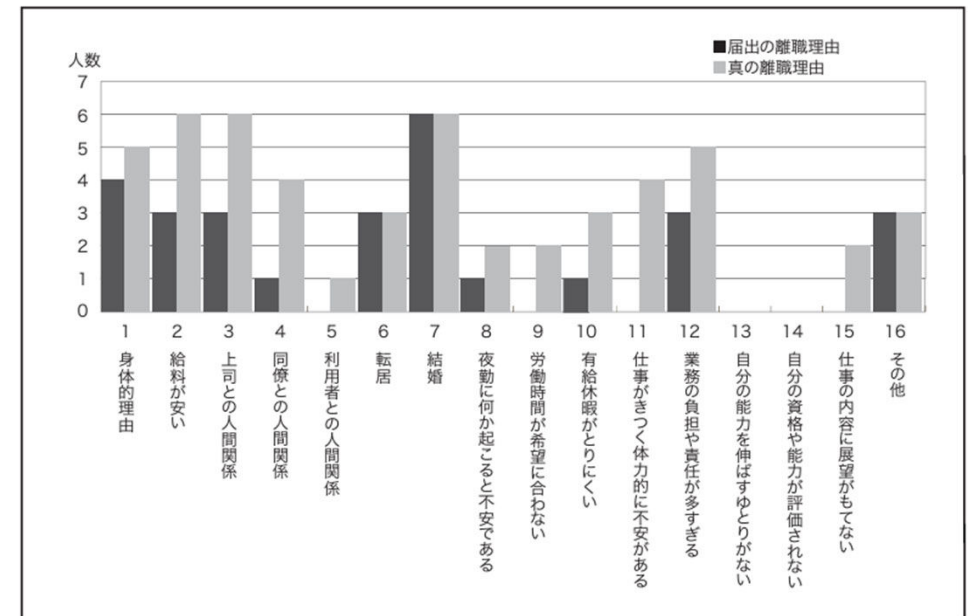
平成19年度高齢者実態調査

リフトを導入する意義

(図表 15) 退職者の退職理由（複数回答）



図表 1 離職した者の離職理由（複数回答）



腰への負担が0になるわけではない。ベッドの高さや介助方法を対象者に合わせて変化させる必要がある。

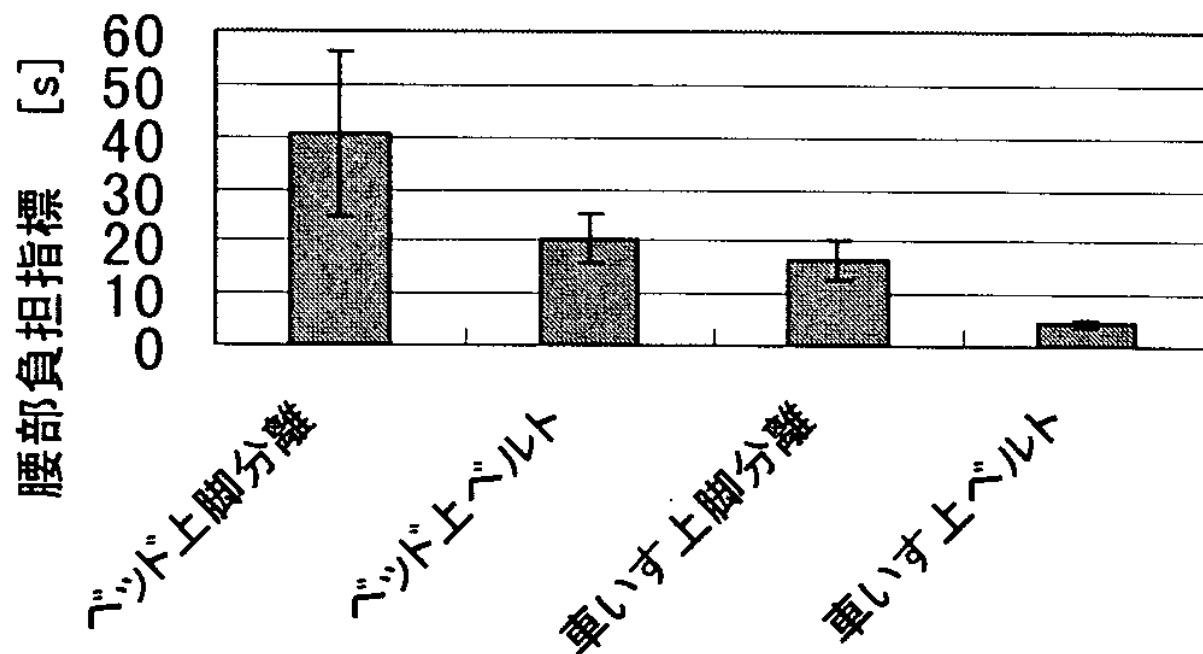


図 12 動作時間を含めた腰部負担

リフトの歴史

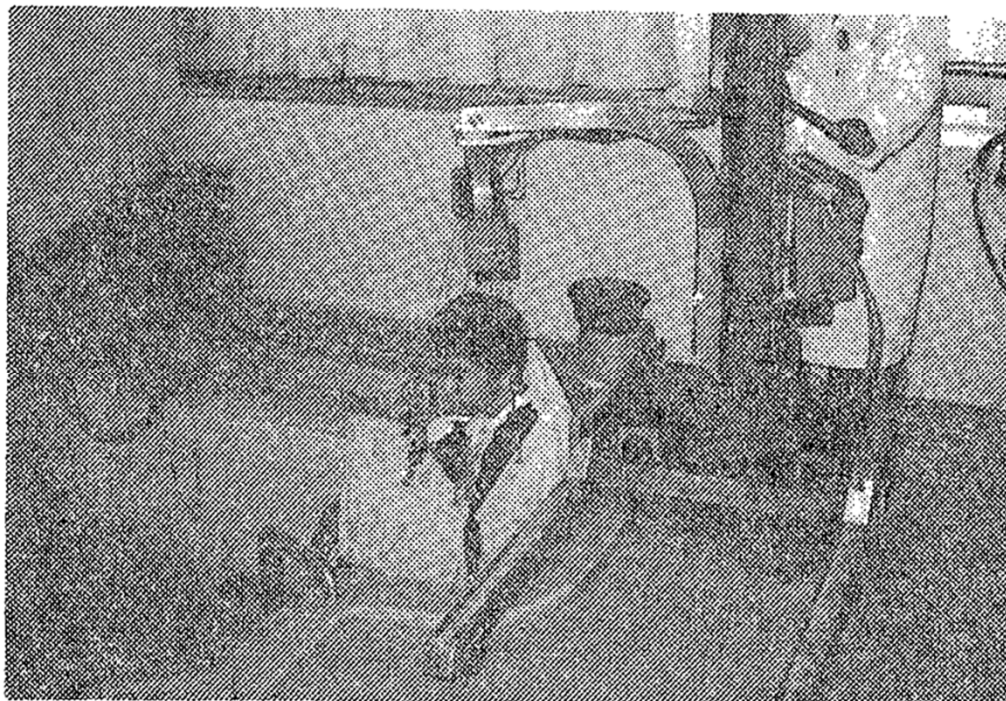
• 1983年

45 移動用リフターの開発（第3報）

東京都心身障害者福祉センター
遠藤 文雄
東京都補装具研究所
青木 主税

目 的

重度心身障害者（児）の Transfer は、食事、排泄、入浴等のADL動作に欠くことの出来ない基本的動作である。重度心身障害者（児）がこの目的をはたすには人力に加えて機器の導入が必要である。東京都補装具研究所では、この困難な移動動作を容易にする福祉機器として昭和51年から移動用リフターの研究開発に取り組んできた。これらの研究成果の一部については、すでに第12、第13学会において、第1報「移動用リフターのリフティング時の姿勢解析」、第2報「移動用リフターの動特性」として報告した。今回、これまで蓄積された研究成果に基いてプロトタイプを製作し、評価を行った。



改善活動の標準ステップと介護テクノロジー導入フロー

生産性向上に資 する ガイドライン	P			D	C	A
	手順 1	手順 2	手順 3	手順 4	手順 5	手順 6
	改善活動の 準備をしよう	現場の課題を 見える化しよ う	実行計画を 立てよう	改善活動に 取り組もう	改善活動を 振り返ろう	実行計画を 練り直そう
介護テクノロジー 導入フロー例	●取組対象決定 ●プロジェクト チームを組成 ●マインドセッ トの共有 ●補助金等 調査	●業務分析を行 う	●機器選定 ●導入前準備 (検討事項) ●導入計画策定 ●補助金等 申請	●導入説明会 ●導入前効果測 定 ●機器等使い方 説明会 ●初期設定等 ●導入後の運用 について	●効果検証 ●振り返りミー ティング実施	

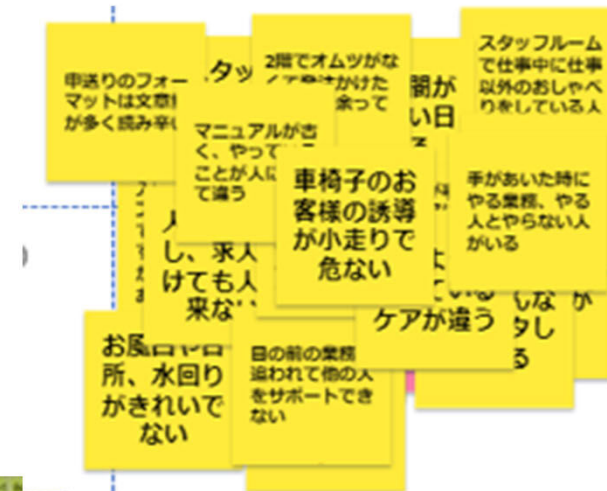
気づきシートと因果関係図 作成手順

①課題の 洗い出し

- 気づきシート記入⇒回収
- 付箋への転記

②全体像の 把握

- グループینگ
- 因果関係図作成



③打ち手の 検討

- 優先すべき課題の特定・深堀
- 打ち手の検討



HitomeQシチュエーション（ワーク）

各シチュエーションでHitomeQがどのような反応を示したか確認していきましょう。

シチュエーション	機器の反応		機器反応 までの時間	気づいたこと
シチュエーション① 臥床状態から 起き上がり、 離床した	 起床  転倒  臥床	 離床  コール 反応なし		
シチュエーション② ナースコールを 押した	 起床  転倒  臥床	 離床  コール 反応なし		
シチュエーション③ 立位から 転倒した	 起床  転倒  臥床	 離床  コール 反応なし		

●導入プロジェクト説明会準備・・・マインドセット共有

「なぜ新しい機器を導入するのか」

「なぜ業務のやり方を変えるのか」

「この取組を通して事業所をどうしたいのか」

取組目的

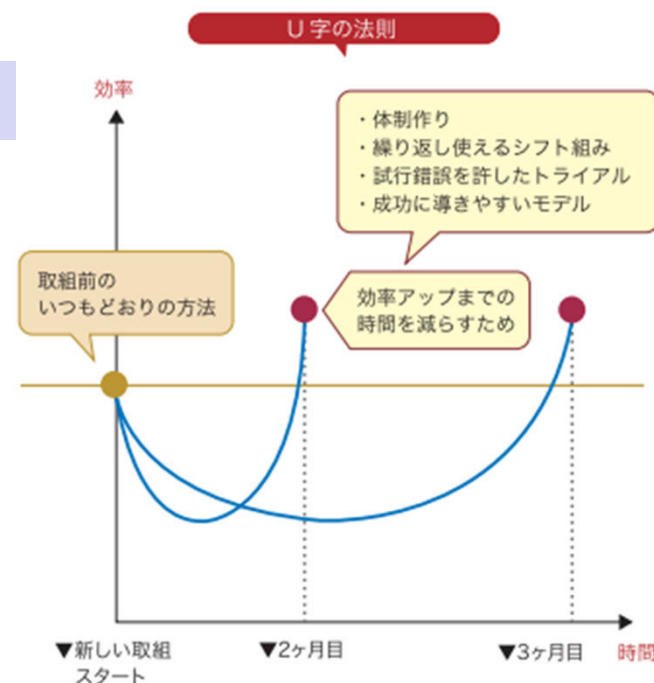
- ①利用者への介護サービスの質の向上
- ②職員の業務量・時間の削減
- ③職員の身体的・精神的負荷の軽減

これらの視点で**目指す姿**を具体的に伝える

取組目標

導入予定の機器について

なぜ導入するのか、導入するとどう変わるのか
職員をイメージしながら説明してみましょう



課題分析を経て、補助金を活用した介護テクノロジー導入の状況

